

カナダ日本語教育振興会 2010 年度年次大会
CAJLE Annual Conference 2010

日本語教育の新たな可能性：言語・コンテンツ・文化の統合
Emerging Possibilities for Japanese Language Education:
Integrating Language, Content and Culture

於：University of British Columbia
8月13日～15日

—後援—

国際交流基金

ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科
在バンクーバー日本国総領事館

【基調講演】

「日本語教育の新たな可能性：言語・コンテンツ・文化の統合」
牧野成一（プリンストン大学）

【教師研修Ⅰ】

「運用の文法：文法形式の選択に見られる話者の関わり方」
砂川有里子（筑波大学）

【教師研修Ⅱ】

「ツールを超えた思考プロセスとしての日本語へ：大学教育における日本語教育の役割」
近松暢子（ディポール大学）

【教師研修Ⅲ】

「コンテンツベース指導 - 意味、コンテクスト、批判的認識の統合に向けて」
久保田竜子（ブリティッシュ・コロンビア大学）

【教師研修Ⅳ】

“Integrating Languages, Content and Culture:
A Language Socialization Approach to Japanese Language Education”
Patricia Duff (University of British Columbia)

【教師研修Ⅴ】

「質問の質：生徒の日本語能力を伸ばす質問とは？」
渡辺素和子（ポートランド州立大学）

【Roundtable Discussion】

Stefania Burk, Christina Laffin, Joshua Mostow,
Sharalyn Orbaugh (University of British Columbia)

【パネル・ディスカッション】

牧野成一、砂川有里子、近松暢子、久保田竜子
渡辺素和子、永富あゆみ（国際交流基金、アルバータ教育省）

【口頭発表】

1. 日本語の同時性表現：適格性を決めるもの
筒井通雄（University of Washington）
2. 「～がる」と「～む」動詞の違い
韓金柱（東京外国語大学大学院博士後期課程）
3. 日本語の主題マーカー「は」について—談話における韓国語との比較分析—
下條光明、李恩姫（University at Buffalo）
4. 日本語学習用新ポータルサイト「NIHONGO e な」の特徴と使い方
浜田盛男（国際交流基金関西国際センター）
5. Using Digital Technology in the Japanese Classroom
レノ ビッチ小本祥子（Burnaby Mountain Secondary School）
6. 読解教材作成ツール：「読解アシスタント」
長谷好美（Massachusetts Institute of Technology）
メドロック真理子（Massachusetts Institute of Technology, MA Student）
7. Content-enriched Instruction モデルを生かした初級・中級クラスの内容重視教育の提案
栗山恵子（Indiana University Bloomington）
8. Getting rid of the training wheels, integrating information literacy into the beginning Japanese curriculum
高橋温子（Smith College）
9. 目標言語による言語学授業の試み
吉成祐子（岐阜大学）
10. Cultural Competence through Visual Media: Gender Perceptions in Japanese Society
吉田香織（立命館アジア太平洋大学）
11. 短期交換留学生を対象とした日本語プログラムにおける「日本語教育入門」の試み
徳永あかね（神田外語大学）
12. Alice in Kanji-land・漢字の国のアリス
由本美雅（Carleton University）
13. 文法・韻律・キャラクタに基づく日本語名詞性文節の統合的な記述と教育
定延利之（神戸大学）、羅米良（大連外国語学院／神戸大学大学院博士課程）

14. 日本語のオノマトペと「する」動詞について—書き言葉コーパス 2009 年デモ版を用いて—
黄慧 (東京外国語大学大学院博士後期課程)
15. 教室談話における「ハイ」の談話構成機能
山元一晃 (筑波大学大学院博士課程)
16. Teaching Japanese Language/Culture through Theater Project
藤田栄 (University of California, Santa Cruz)
17. 「ドキュドラマ」の可能性—多文化理解の促進と流暢さ強化に向けた試み
飯島有美子 (関西国際大学)、齊木ゆかり (東海大学)
18. アニメを素材とした日本語学習活動の展開—年少学習者に対する授業実践から—
矢崎満夫 (静岡大学教職大学院)
19. 格助詞「で」の学習・指導における「投射モデル(the Projection Model)」の検証—台湾・
韓国における教授実験を通して—
秋葉多佳子 (東北大学大学院博士後期課程)
20. 日本語学習者の産出する関係節の特徴についての考察
矢吹ソウ典子 (York University)
21. ストーリーを語る談話・文章における視点の表現の分析
渡辺文生 (山形大学)
22. 相づちではない「へえ」：母語話者データと学習者データの会話分析による観察
古川智樹、池田佳子 (関西大学)
23. Behaviors and Impressions in Listening during First Time Meeting: Production and
Perception of Aizuchi and Head Nods during NS-NS and NS-NNS Interaction in Japanese
半沢千絵美 (University of Iowa, Ph.D. Student)
24. Approaching Non-Linguistic Aspects of Japanese “Backchannels”
Neill Walker (University of Alberta, M.A. Student)
25. Narrating Motion Events: the Case of JFL Learners
虎谷紀世子 (York University)
26. Comprehension of Compound Verbs of Advanced Japanese Language Learners in Hong Kong
何志明、上田早苗 (The Chinese University of Hong Kong)
27. カタカナ語の韻律練習
柴田智子 (Princeton University)
28. 言語教育に~けるオンラインコースの活用法
加山裕子 (University of Manitoba)

29. ムードルを使用したスピーチの学生間フィードバック
庄司京子 (Notre Dame High School)
30. 日本語の e ラーニングによる自己学習—ディクテーションタスク場面の質的分析の試み—
楊嘉貞 (東京外国語大学大学院 博士後期課程)
31. Using Plain Forms but Still Being Polite: Speech Style Shifting in Japanese
Conversation
井坂由紀子 (University of Alberta, M.A. Student)
32. Overuse of Honorifics by Learners of Japanese: Implications for Teaching Politeness
as a Japanese Cultural Value
藤田栄、岡本成子 (University of California, Santa Cruz)
33. 台湾における日本語学習者の敬語意識及び使用実態—アンケート調査結果をもとに—
郭碧蘭 (真理大学)
34. 過去 40 年間の教材における受身文提示法の変遷—教授法と文法説明—
安藤節子 (桜美林大学)
35. 構文法における中日間の相違についての一考察—比較文化論の視点から—
賈華 (Shenzhen Polytechnic Institute)
36. Japanese Language Schools in Vancouver Today: Demographical Change and Its
Influence on the Schools
水田愛 (University of British Columbia, Ph.D. Student)
竹井 尚子 (Simon Fraser University)